



### 附属小学校長就任のご挨拶

山辺 規子(附属小学校長・文学部)

この平成22年(2010年)4月より、附属小学校の校長となりました。実際のところ、奈良市内に住んでいるわけでもなく、専門分野からしても小学校という存在は決して近いものではありませんでしたので、心にとまどいをいただきながら、小学校に足を踏み入れました。

そこで強く印象づけられましたのは、小学校の熱気です。

最初にうかがったのは春休みの間でしたが、教職員が新年度を迎える準備を熱心にされておられました。附属小学校は、今年度100周年を迎えます。また、現在附属幼稚園との協力体制で幼小一貫教育の研究事業が進みつつあります。やるべきことは山ほどあるという印象をうけました。

この間、会議室では、小学校の100周年記念事業のために積極的に活動して下さる保護者の方々や、卒業生その他関係者の方々の姿を何度も拝見しました。その掛け声は、「小学校100周年を子どもたちのいい思い出になるようにしよう」です。



今は、私の役割は、この意欲が実を結び、子どもたちをはじめ関係するみなさんが笑顔で小学校100周年を迎えられますように、また小学校が担っている教育研究活動が今年も充実したかたちで繰り広げられるように、みなさんのご協力のもと、自分のできるかぎり微力を尽くすことだと考えております。まだまだ小学校をはじめ、附属校園の活動を十分に理解しているとは申せませんが、なにとぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

### 第2期中期目標期間中の附属学校園

中島 道男(附属学校部長・文学部)

昨年度は大学100周年の年でした。記念事業の一環として、附属学校園は「奈良女子大学附属学校園から日本の教育を考える」というシンポジウムを開催し、これまでの附属の教育を振り返り、今後を展望しました。第2期中期目標期間中には、附属学校園が次々と100周年を迎えます。まさに節目のときであります。

非教員養成系大学である奈良女子大学の附属学校園としては、大学の資源を活用しつつ実験的・先導的課題に取り組み、さまざまな現代的な教育課題に提言していくことがまず期待されることでしょう。現在、大学の指導・支援を受けながら精力的に推進しているものとして、21年度から研究開発学校の指定を受けた幼稚園と小学校による研究、22年度から指定を受けることになった中等教育学校のSSHなどがあります。前者は幼・小・中等が共同でおこなった研究開発(18~20年度)に引き続き指定されたもので、後者のSSHも前回の指定(17~21年度)に引き続いてのものです。異校種間の接続教育・一貫教育に関する実践・研究も、これまでの実績を踏まえ、第2

期にさらに発展・展開させたい取り組みであります。

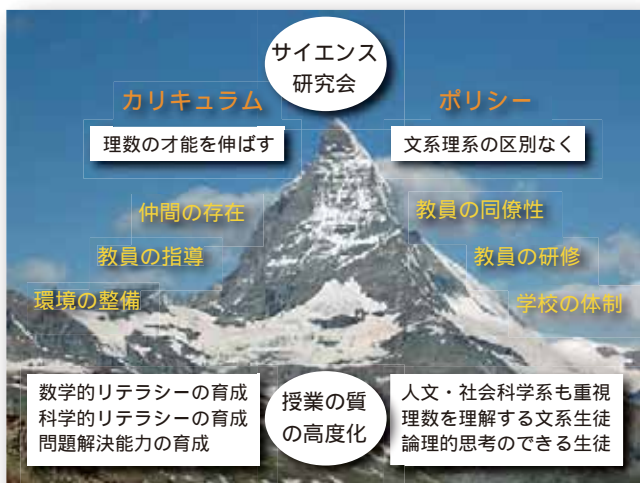
大学との連携もますます緊密になっています。大学と中等教育学校とのあいだで20年度から始まった「高大連携特別教育プログラム」にもとづく最初の特別選抜は21年度におこなわれました。教育面における大学と附属とのこの連携については、国立大学協会主催の「第3回高大接続ワークショップ」(21年12月)でも高い評価を受けております。研究面においても、大学と附属とのあいだでおこなわれる研究をコーディネートする役割を担う教育システム研究開発センターとも連携しながら、さらに協力していきます。

第2期には、学長のリーダーシップによるマネジメントのもと、附属学校部を中心として大学と一体になった学校運営をおこなうべく、「附属学校運営会議」が設置される予定です。法人化にともなって文学部附属から大学附属となり附属学校園は大学との連携を強化してきましたが、この流れは第2期にはより加速されるはずであります。一層のご支援をお願いします。

# 新たなSSH研究開発に指定される！

附属中等教育学校

附属中等教育学校は、2005年度～2009年度の5年間、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の研究指定を受け、研究を進めてきました。教員や生徒が頑張った結果、その研究成果は高い評価を受けました。そして、5年間の成果をまとめて、『未来を拓く理数教育への挑戦』(文理閣)として2010年7月に出版する予定です。



これらの成果を受けて、2010年度から5年間の新たなSSHの指定を受けることになりました。

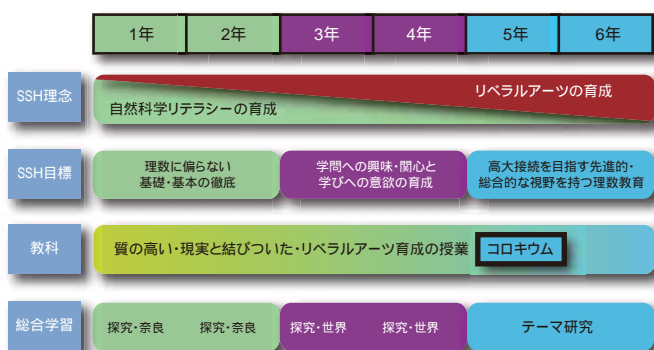
## 1. 研究開発の概要

新たなSSHの研究開発課題は、次の通りです。

中等教育6年間に於いて、自然科学リテラシーを基盤とするリベラルアーツの育成のためのカリキュラム開発と、高大接続のあり方についての研究開発

これは、先の5年間のSSHのキーワードであったリテラシーと高大連携を基盤として、リベラルアーツと高大接続をキーワードに、これまでの研究成果を継承・発展させるものです。

### 奈良女子大学附属中等教育学校 中高一貫SSH概念図

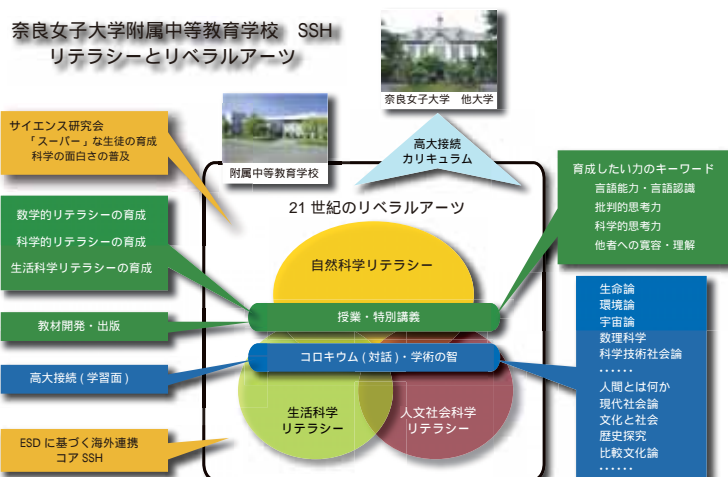


## 2. 研究の柱

今回のSSHでは、次の5つの研究の柱をもとに、研究を進めていきます。

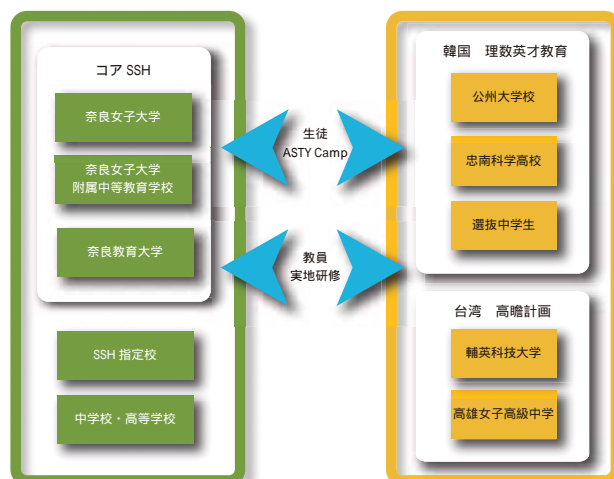
- (1) 自然科学リテラシー(数学的リテラシー、科学的リテラシー)の育成
- (2) リベラルアーツの育成
- (3) サイエンス研究会の活動
- (4) 国際交流
- (5) 大学・研究所との連携・高大接続

中等教育における、リベラルアーツ育成の具体化はこれからですが、新たな学校設定科目「コロキウム」の創設を軸として研究開発を行います。



## 3. コアSSHによる海外連携

5年間の通常枠と同時に、2010年度は単年度でコアSSHにも指定されました。これは、海外の理数教育先進校と連携を図りながら、生徒の理数の力を伸ばしていくものです。生徒たちが1週間、協働で研究を行うASTY Camp(Asia Science and Technology Youth Camp)の実施と、教員の海外実地研修を軸として、研究を進めます。



## 幼小の研究開発学校、2年目に入る

附属幼稚園・小学校

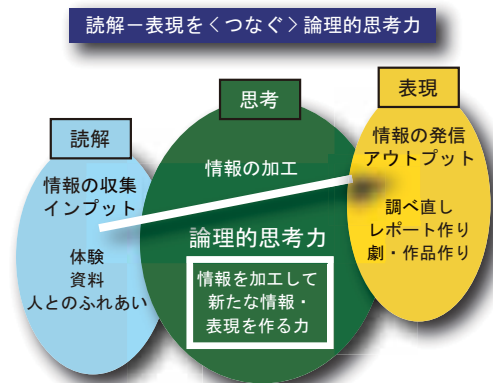
平成21年度から3年間、文部科学省より指定を受けている附属幼稚園と小学校の研究開発は、いよいよ2年目を迎えることになりました。

1年次の研究を振り返ると、「ひらめき」の活動・「ひらめき」の時間での指導法は、幼小9年間で一貫・継続させるとともに、幼児・児童の発達段階に合致するように留意して確立してきました。その一貫性・継続性の実現に向けては、初等教育前期においては、環境を整え「もの」の特徴に繰り返し触れる体験を積み重ね、その体験の言語化を促すことに重点をおきました。初等教育中期から後期では「読解(INPUT)」する場面や「表現(OUTPUT)」する場面を設定し、「読解と表現をつなぐ」ことを繰り返し経験させ、自らの「思考」を働かせることに重点をおきました。また、初等教育前期では、「情動」に働きかけ、幼児が感覚的な体験に没頭できるように指導し、中期では「お知らせの時間」や、「おたずね」と「こたえ」により、「読解」と「表現」をつなぐ「思考」を意識的に働かせるように指導し、後期では、学級集団としての問いと個人の追究活動とにより思考力を深化させるように指導し、幼児・児童の

発達段階に応じた指導法を開発してきました。

2年次も引き続き「幼小一貫教育において『読解と表現を〈つなぐ〉論理的思考力』を育成する教育課程の研究開発」を主題として、以下の主な計画を立てました。

- ・初等教育前期・中期・後期に実施した内容を検討し新たなカリキュラムを編成する。
- ・「ひらめき」の時間の学習において、論理的思考力を育むための指導の要点を明らかにする。
- ・幼小一貫教育における活動内容を明らかにする。
- ・学習領域による思考の特徴の分析を行う。



## 附属幼稚園TOPICS 「踊るって楽しい！楽器を鳴らすって楽しい！」

本園では「自由選択活動」の時間を園生活の中心に置いています。自由選択活動とは、教師がその時期のその子ども達に適した環境を教育的意図のもとに設定し、子ども自らがその環境に対して興味や関心を抱き、自由な心で選択しかかわっていく遊びの時間です。

その自由選択活動の中の1つの遊びとして音楽を選択できるように、昭和59年から「音楽コーナー」を設けています。音楽コーナーは音楽を楽しみたい子どもたちが自由に集まり、歌ったり、好きな楽器（主に打楽器）を鳴らしたり、踊ったりするなど、自然に異年齢で交流しながら和やかな雰囲気の中で音楽的な体験を楽しむことができる場です。

今年も5月半ばから音楽コーナーが始まりました。3歳児のYくんは毎日必ず音楽コーナーにやってきます。リズムカルな曲を好み、曲の一番盛り上がる部分になるとジャンプをしたり、体をゆすってリボン（スティックにひもをつけたもの）を大きく振ったりして、感じたリズムを体全体で表現しています。4歳児のHくんはみんなとは少し離れた場所に立って友達のしている様子を眺めつつ、曲に耳をすませ、自分の鳴らし方で楽器を鳴らすことを楽しんでいます。

5歳児のEくんは自分の指揮にはなかなか合わせてくれない年中・年少組の友達を受け入れながら一生懸命指揮をしています。

音楽へのかかわり方は個々様々です。専属の担当教員は、それぞれの子どものしたいことを認め、感じたことや表現したいと思ったことを大切にしながら、子ども自身に内在する音楽性をおおらかに表現できるような援助を心がけています。



## 附属小学校TOPICS 「創立100周年のポスターづくり」

創立100周年を迎えた小学校では、4月から子どもたちが、ポスター作りに励んでいます。高学年から順番に、各学級で10枚ほどのポスターを仕上げていきます。6年生組は学校行事を題材に、6年組は各自がテーマをもって取り組みました。

そして、制作した中から、二枚を近鉄奈良線の学園前駅に掲示して、記念式典開催の広報にも一役買っています。来年の3月まで続けます。

さて、昨年は、創立100周年のテーマを5、6年生の児童から募集してみました。すると、「なかよし」という言葉が入った文言がたくさん集まりました。これは、本校の教育構造の一つに「なかよし」の学習があることとつながっています。相手を生かし、自己を生かして互いに協同する人間としての結びつきを育てるためのものです。そこで、100周年のテーマを「なかよしの輪～夢を切り拓く～」と決めました。同じ小学校で育ち育てられた過去、現在、未来の人たちと連帯感をもち、希望を抱いて自らの道を歩むイメージがわいてきます。

ところで、育友会では、昨年からの創立100周年実行委員会を立ち上げ、毎月会議を開いてきました。

今年から、役員を増やし新たにスタートしました。同窓会や教育後援会、PTCC役員の方々とも協力し合って、この記念すべき100周年の節目に巡り合えたことに感謝しながら記念事業に取り組んでいきたいと思っています。



## 附属中等教育学校TOPICS 「後期課程(第一)体育館改修が実現」

附属中等教育学校では、念願であった後期課程(第一)体育館改修が実現しました。

体育館は(1969年竣工)、築40年を経て老朽化が激しかった上に、耐震基準にも問題がありました。数年前から文部科学省に要望していましたが、創立100周年ということもあって、大学にも大きな後押しをいただきました。

今回の改修では、耐震改修(約1600㎡)に加え、屋根・外壁・床・扉・窓の改修が実現しました。体育館の「命」とも言うべき床が、以前はかなり傷んでいただけにありがたいことです。窓や扉も軽く開閉できるようになりました。

旧トイレ・更衣室は撤去され、新たに体育研修棟(約640㎡)が建設されました。研修棟には、広く綺麗になったトイレ・更衣室(シャワー室あり)の

ほか、次のような設備が整っています。

- ①体育館研修室(IT化に対応した教室)
- ②観覧スペース(アリーナ内が上から観覧できる)
- ③ロビー(ダンス・ウォーミングアップ等に利用)
- ④体育準備室(安全に配慮した監視モニター設置)
- ⑤屋外バルコニーと屋外階段(運動場が見渡せる)

また、旧体育準備室をトレーニング室に改装したほか、木製収納棚や電動カーテンなども整いました。体育館前通路の植樹(ハナミズキ9本、ツツジ・サツキ等)も行いました。

現在、授業やクラブ活動等で使用していますが、見違えるような風景に、生徒は「劇的ビフォー・アフターみたいや」と大喜びです。体育館は学内への開放や地域開放も予定しており、大学や附属学校園の教育・研究活動等にも利用できます。



後期課程体育館  
玄関からアリーナ方面



観覧席から  
アリーナ内